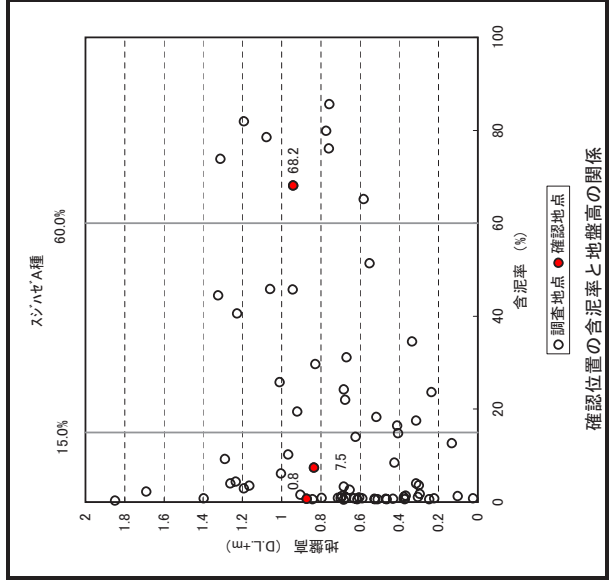


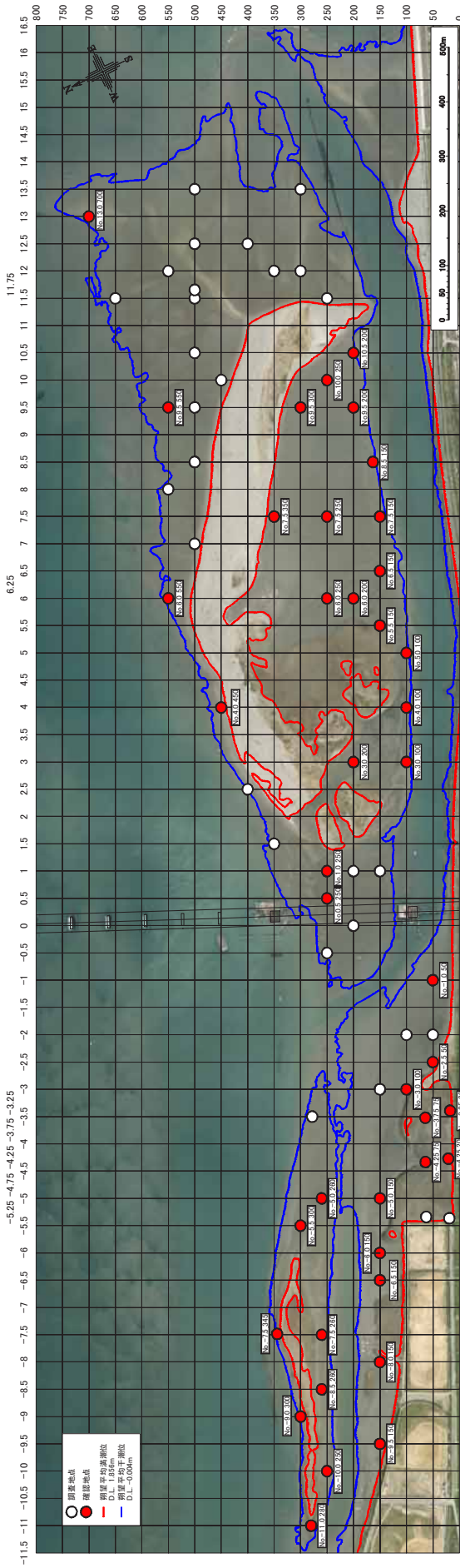
確認状況及び確認位置の底質等	スジハゼA種 スズキ目ハゼ科 <i>Acentrogobius</i> sp. A 確認地点数：3地点 確認個体数：3個体 地盤高(D.L.m) 0.870 ~ 0.935 含泥率(%) 0.8 68.2 表層微細粒度(μ m) D50：25.8 ~ 400.0 分布概要 北海道～西表島、国外では沿海州、朝鮮半島、中国に分布する。浅海域～河口の砂泥域に生息するが、生息場所により形態の異なる3タイプが存在する。河口域の泥干潟に生息するものはツボウエビ類の生息孔に隠れていることが多い。共生関係にあることが示唆される。
確認位置の底質等	県内の生息状況
希少性	環境省RDB 徳島RDB IWF Japan 留意

No.	地点名	個体数	地点名	個体数
1	No. 10. 0. 250	1		
2	No. 9. 5. 200	1		
3	No. 9. 5. 150	1		

確認個体数(上位20地点)

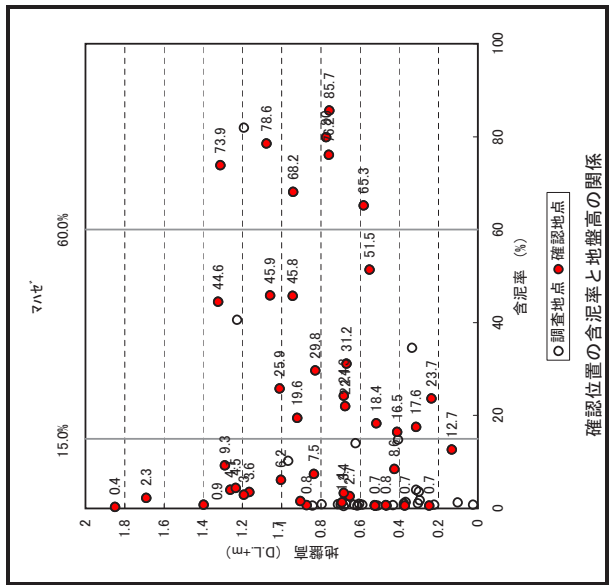


スジハゼA種の確認状況(7月)
 <航空写真 撮影日：平成18年4月1日>

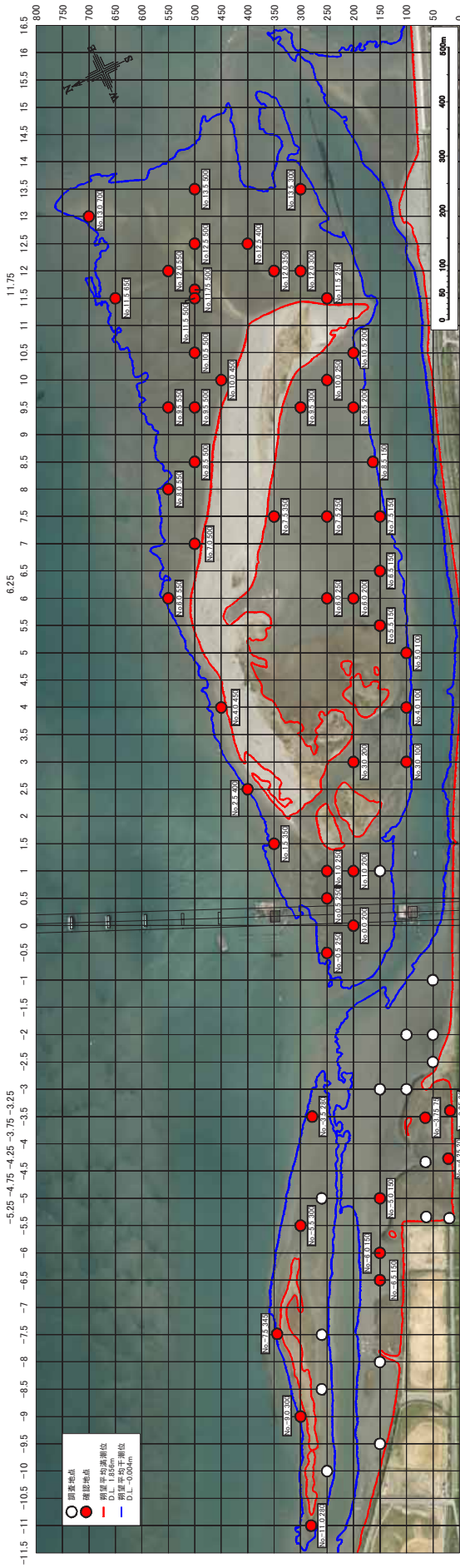


種名	マハゼ	
目科名	スズキ目ハゼ科	
学名	<i>Acanthogobius flavimanus</i>	
確認地点数	43地点	
確認個体数	621個体	
地盤高(D.L.m)	~	1.848
含泥率(%)	~	85.7
表層微細粒度(μm)	D50 :	20.5
		481.5
	分布概要	
確認状況及び確認位置の底質等	北海道の太平洋・日本海川～種子島、瀬戸内海、隠岐、対馬、五島列島、国外では沿海州、朝鮮半島、渤海、黄海に分布する。内湾から河川の河口にかけて生息し、泥質に、成魚は群がり、成魚は単独で見られる。	
特徴	頭が大きく、吻がやや長い、尾鳍基底の黒色斑が二又しない、尾鳍に多数の暗色点がある。成熟しても体側に白色模様がない。雄の第1背鳍棘が伸長しないなどで日本産同属他種と区別可能。	
希少性	環境省RDB	—
	徳島RDB	—
	IWWF Japan	—

No.	地点名	個体数	地点名	個体数
1	No. 9. 5. 200	109	No. 6. 5. 150	14
2	No. 7. 5. 150	79	No. 3. 7. 5. 75	14
3	No. 10. 0. 250	69	No. 4. 2. 5. 20	12
4	No. 8. 5. 150	55	No. 9. 5. 550	10
5	No. 9. 5. 150	29	No. 11. 0. 280	10
6	No. 8. 0. 150	27	No. 3. 2. 5. 20	9
7	No. 4. 2. 5. 75	19	No. 10. 5. 200	8
8	No. 6. 5. 150	19	No. 7. 5. 250	8
9	No. 6. 0. 150	17	No. 6. 0. 550	8
10	No. 5. 0. 150	15	No. 7. 5. 260	7

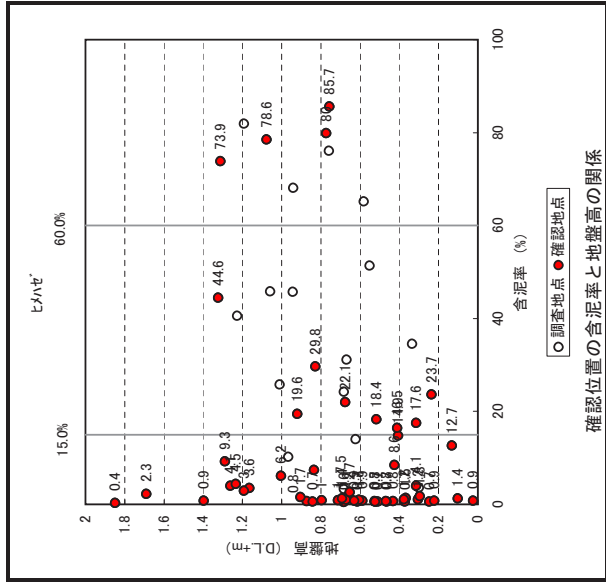


マハゼの確認状況 (7月)
 <航空写真 撮影日：平成18年4月1日>

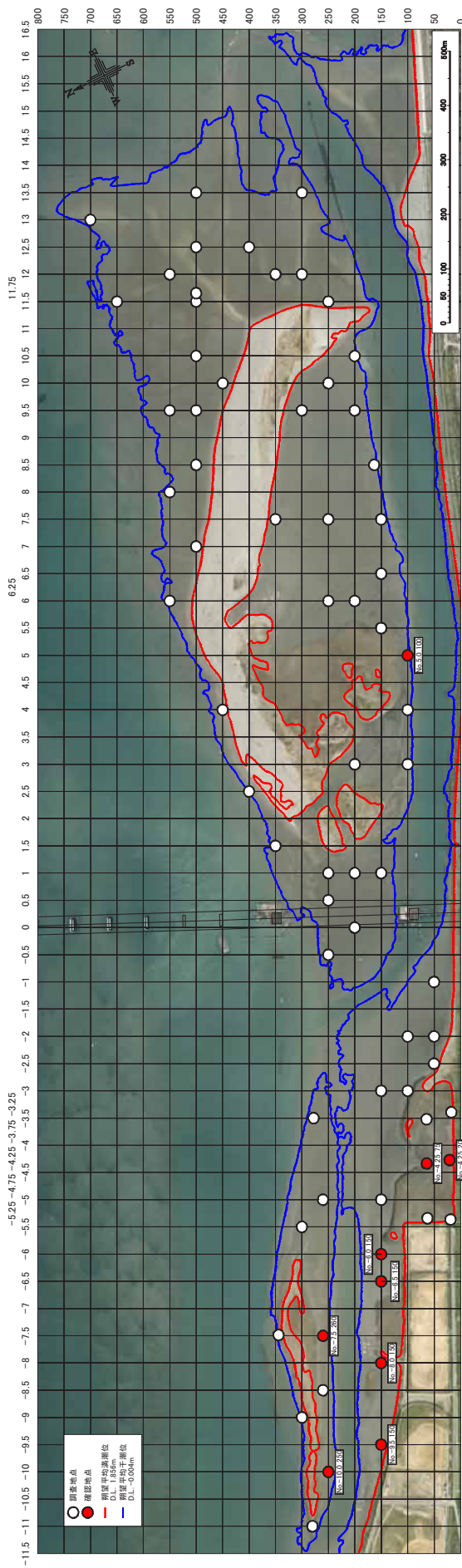


種名	ヒメハゼ
目科名	スズキ目ハゼ科
学名	<i>Favonigobius gymnauchen</i>
確認状況	確認地点数：56地点 確認個体数：1239個体
地盤高(D.L.m)	～ 1.848
含泥率(%)	0.4
表層微細粒度(μ m)	D50：23.5 ～ 442.5
分布概要	北海道の太平洋・日本海側～西表島、瀬戸内海、国外では朝鮮半島、渤海、黄海、東・西シナ海、台湾、西部太平洋に分布する。 内湾や河川の河口域に分布し、砂底や砂泥底に単独で見られる。
特徴	体が細長く、頭はやや劣る。尾鰭基底の黒色斑の後半は幼魚のときはやや丸く、成長するにつれ二又するなどで、日本産の同属他種と区別可能。雄の第1背鰭第2棘は糸状に伸長するが、雌はしない。
希少性	—
環境省RDB	—
徳島RDB	—
WWF Japan	—

No.	地点名	個体数	No.	地点名	個体数
1	No. 7. 5. 150	163	11	No. -3. 5. 280	43
2	No. 9. 5. 200	139	12	No. 11. 7. 500	40
3	No. 8. 5. 150	94	13	No. 11. 5. 650	29
4	No. 9. 5. 300	74	14	No. -3. 7. 75	27
5	No. 10. 5. 200	58	15	No. 10. 5. 500	25
6	No. 10. 0. 250	52	16	No. 6. 0. 550	25
7	No. -0. 5. 250	47	17	No. -5. 0. 150	23
8	No. -5. 5. 300	46	18	No. 7. 5. 250	22
9	No. 9. 5. 550	43	19	No. 8. 0. 550	21
10	No. 7. 0. 500	43	20	No. 13. 5. 500	20



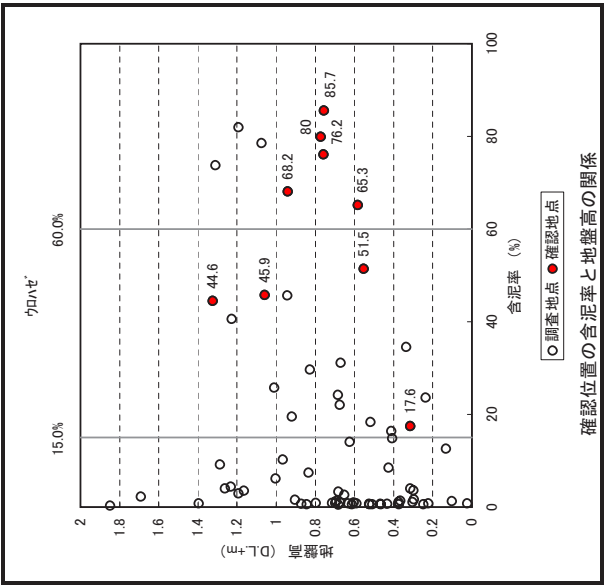
ヒメハゼの確認状況 (7月)
 <航空写真 撮影日：平成18年4月1日>



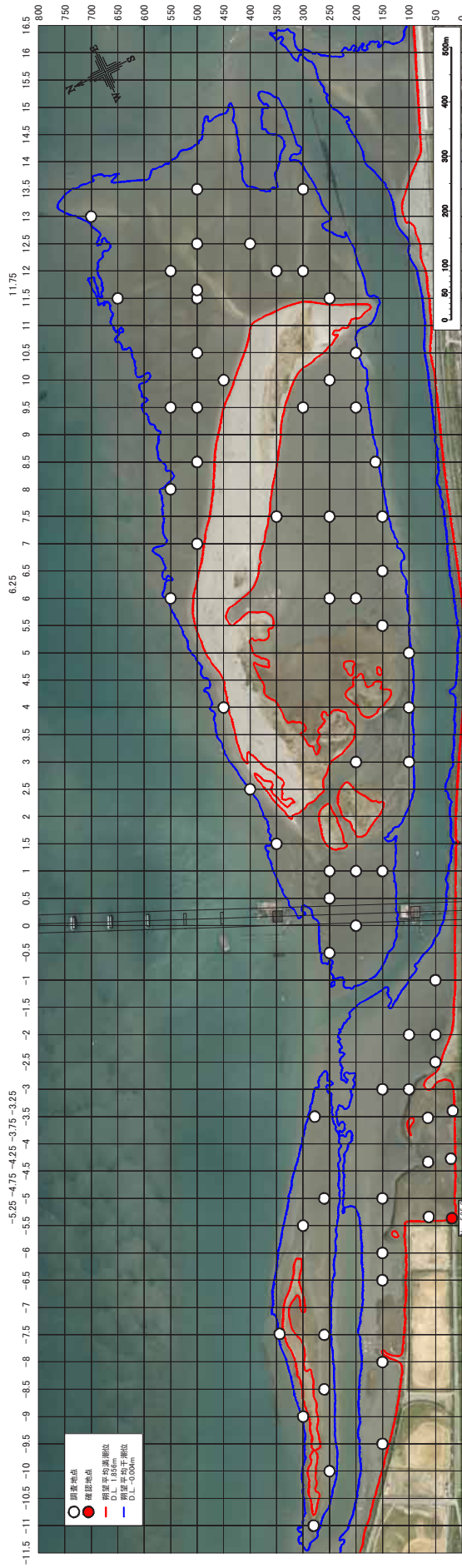
種名	ウロハゼ
目科名	スズキ目ハゼ科
学名	<i>Glossogobius olivaceus</i>
確認状況	確認地点数：9地点 確認個体数：26個体
地盤高(D.L.m)	0.313
含泥率(%)	17.6
表層微細粒度(μm)	D50：23.6
	分布概要
	茨城県・新潟県～九州、瀬戸内海、種子島、隠岐、香岐、五島列島、国外で東シナ海、台湾に分布する。
	河川の汽水域や汽水湖に生息し、砂泥底や泥底に単独で見られる。
確認状況及び確認位置の底質等	特徴
	第1背鰭前方に黒点が散在する。頬下部に2黒色斑が縦に並び、尾鰭基底にミツキーマウスの頭のような黒色斑があるなどで日本産同属他種特別可能。
希少性	環境省RDB 徳島RDB IWF Japan

No.	地点名	個体数	地点名	個体数
1	No.-9.5.150	5		
2	No.-8.0.150	4		
3	No.-7.5.260	2		
4	No.-6.5.150	3		
5	No.-6.0.150	5		
6	No.5.0.100	1		
7	No.-4.25.75	4		
8	No.-4.25.20	1		
9	No.-10.0.250	1		

確認個体数(上位20地点)

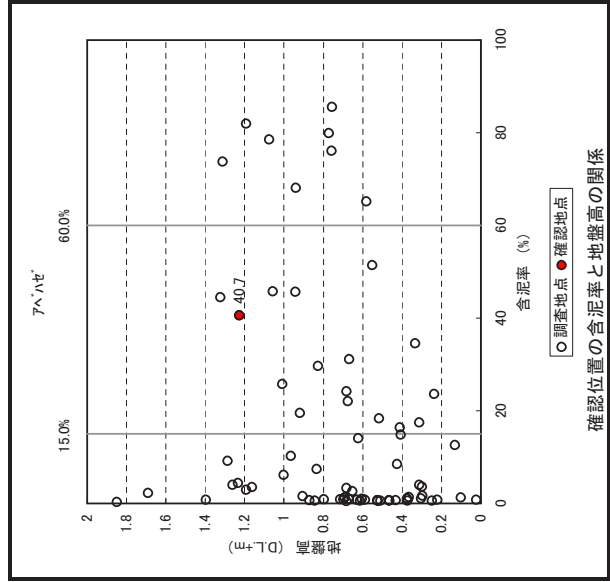


ウロハゼの確認状況 (7月)
 <航空写真 撮影日：平成18年4月1日>



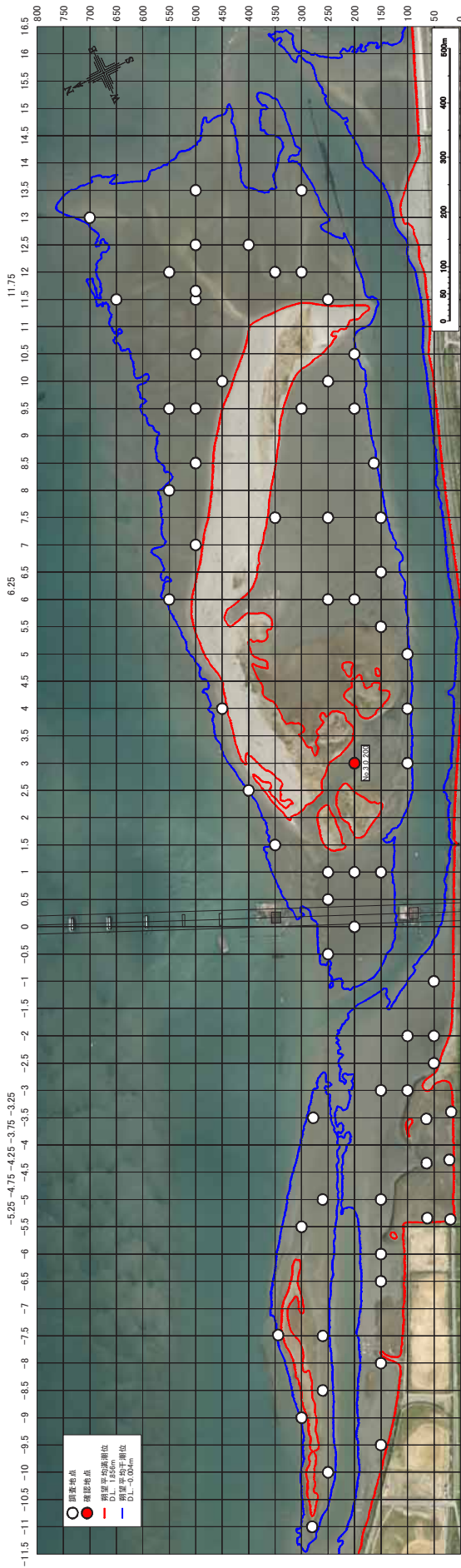
確認状況及び確認位置の底質等	アベハゼ	種名	アベハゼ
	スズキ目ハゼ科	目科名	スズキ目ハゼ科
	<i>Mugilogobius abei</i>	学名	<i>Mugilogobius abei</i>
	確認地点数：1地点	確認状況	確認地点数：1地点
	1.226	地盤高(D.L.m)	1.226
	40.7	含泥率(%)	40.7
	481.5	表層微細粒度(μm)	D50：481.5
	分布概要		
	宮城県・富山県～種子島、瀬戸内海、隠岐、対馬、国外では注汚染半島、渤海、黄海、東シナ海、台湾分布する。河川の河口域に生息する。岸よりの泥底の穴の中、石やカキ殻の間や下に単独で見られる。勇気汚濁の進んだところでも才尾まで生息する。		
	特徴		
	軀幹部数本の黒褐色横帯があり、尾部から尾鰭にかけて2黒褐色縦帯が走るなどで日本産同属他種と区別可能。		
希少性	環境省RDB		—
	徳島RDB		—
	WWF Japan		—

確認個体数(上位20地点)			
No.	地点名	個体数	地点名
1	No.-5.25.0	1	



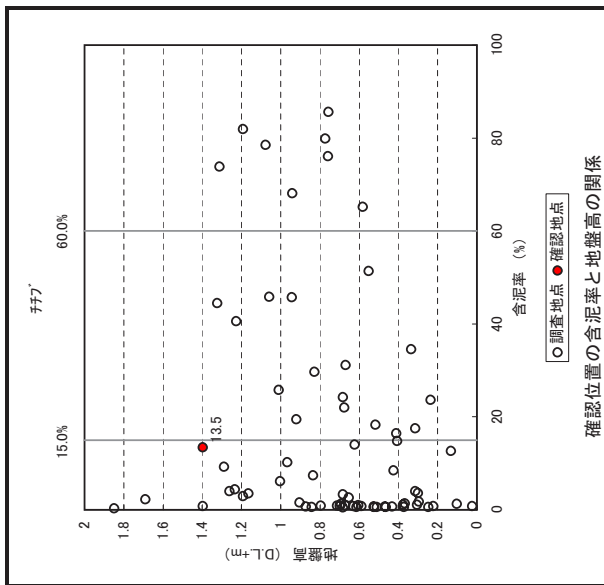
確認位置の含泥率と地盤高の関係

アベハゼの確認状況(7月)
 <航空写真 撮影日：平成18年4月1日>



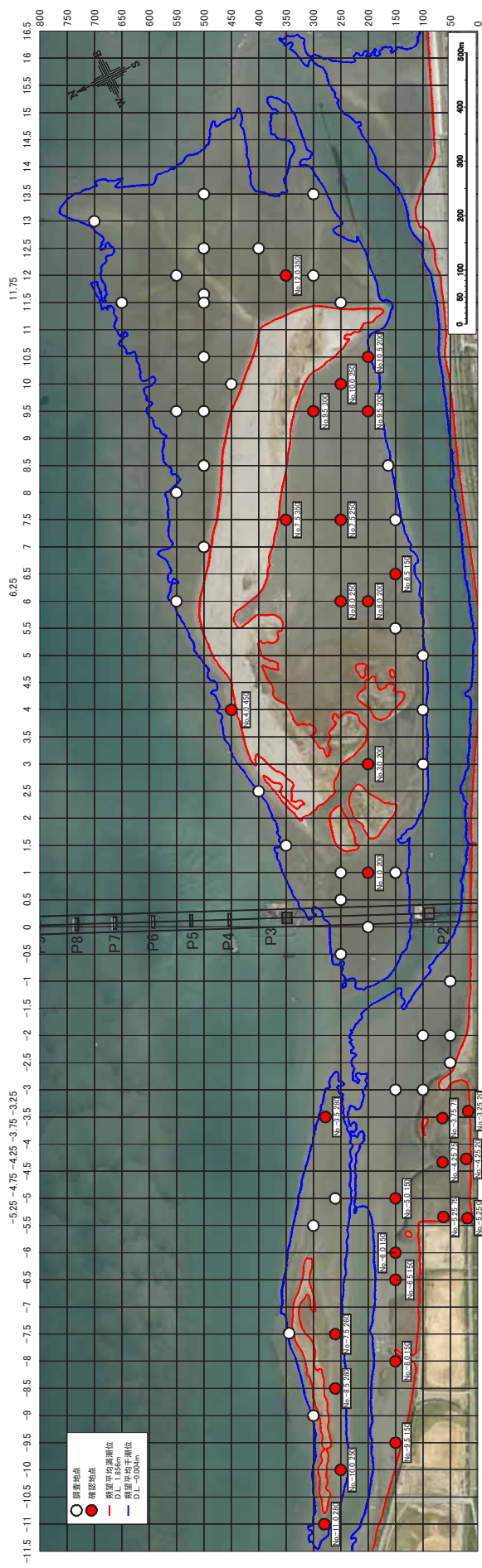
確認状況及び確認位置の底質等	種名 目科名	チチブ スズキ目ハゼ科
希少性	学名	<i>Tridentiger obscurus</i>
	確認地点数	1地点
	確認個体数	2個体
	地盤高 (D.L.m)	1.396
	含泥率 (%)	13.5
	表層微細粒度 (μm)	D50 : 433.7
		分布概要
		青森県以南の本州、四国、九州、隠岐、香岐、対馬、五島列島、国外では沿海州、朝鮮半島に分布する。 主に内湾や河川の河口域に生息するが、淡水域にも出現することもある。砂泥底や礫石の周辺に単独で見られる。 ヌマチチブがいない島嶼や内湾に注ぐ小河川ではかなり遡上する。
		特徴
		頭に白色点が密在し、背面の白色点には側面に比べ細かく不定形で緊密である。胸鰭基部に黄色い横帯がある。
	環境省RDB	—
	徳島RDB	—
	WWF Japan	—

確認個体数 (上位20地点)	No.	1	地点名	No. 3.0.200	個体数	2	地点名		個体数

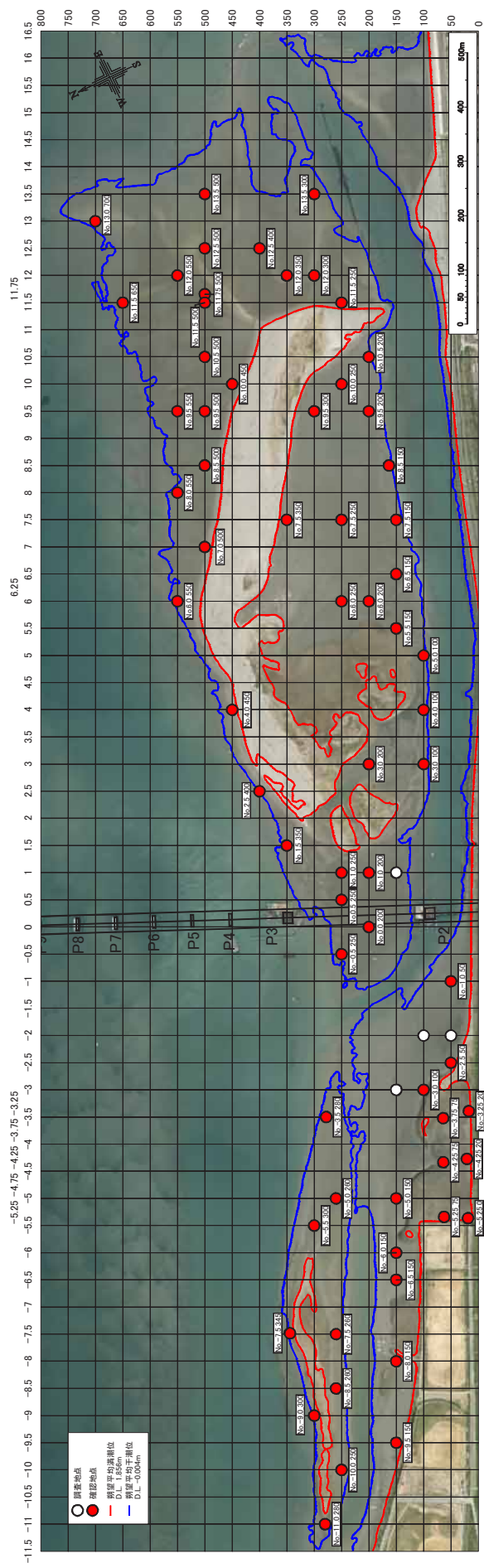


確認位置の含泥率と地盤高の関係

チチブの確認状況 (7月)
 <航空写真 撮影日: 平成18年4月1日>



レッドデータブック記載種確認地点 (7月)



ハゼ科の魚類確認地点 (7月)